

1 調査の目的

日常生活に関する市民意識の把握と、市が取り組んでいる政策に対する市民満足度と重要度を把握・分析し、今後の市政運営に反映させるための参考資料とする。

また、第5次那覇市総合計画の施策ごとに設定された指標について、本調査にて進捗管理を実施すると

2 調査の実施結果

- (1) 調査対象：那覇市に居住する満18歳以上の男女5,000人
- (2) 回収実数：1,356人（回収率：27.1%、うちインターネットによる回答6.5%）
- (3) 調査期間：令和5年10月20日～11月15日（27日間）
- (4) 集 計：コンピュータによる単純集計・基本項目とのクロス集計

3 調査結果の概要

●65.2%の市民が那覇市を「住みよい」と感じている。

・那覇市の住み心地については、「まあ住みよい」が44.8%と最も多く、次いで「普通だと思う」が27.6%、「非常に住みよい」が20.4%の順となっている。

・「少し住みづらい」と「非常に住みづらい」を合わせると6.8%となっている。

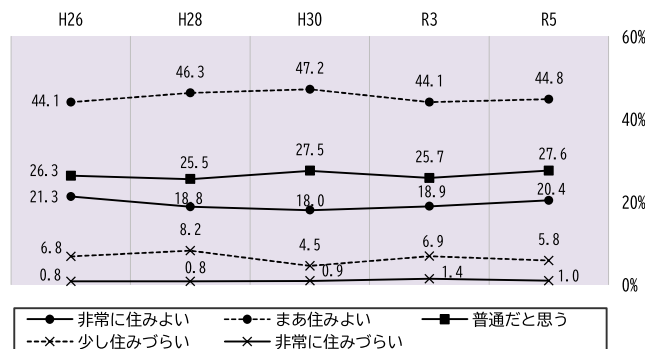


図1：経年変化（住み心地）

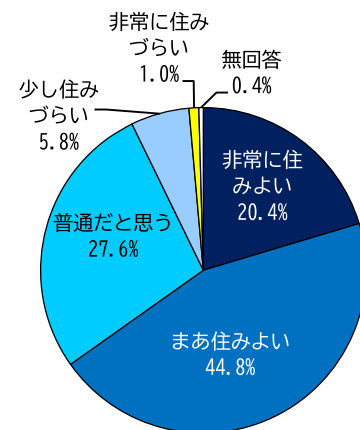


図2：調査結果（住み心地）

●68.7%の市民が「自分のまち」として那覇市に愛着を感じている。

・那覇市に「自分のまち」として「愛着を感じる」の割合は68.7%、「愛着を感じない」の割合は4.4%である。

・愛着を感じる理由については、「通勤・通学・買い物など生活に便利だから」の割合が69.0%と最も高く、次いで「公共交通の便がよいから」の割合が55.4%、「公共施設（公民館・図書館・支所等）が充実しているから」の割合が12.2%の順となっている。

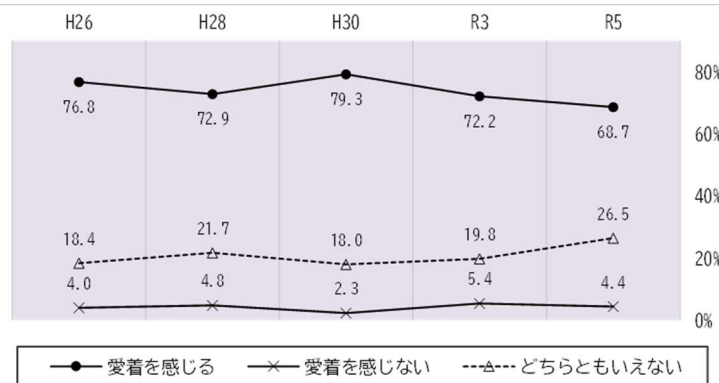


図3：経年変化（愛着度）

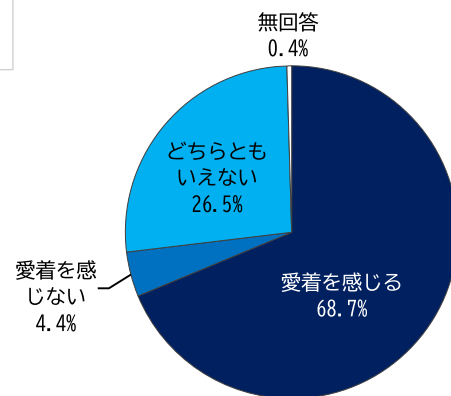


図4：調査結果（愛着度）

●自治会・通り会・校区まちづくり協議会・PT(C)Aの活動に「参加している」と答えた割合は20.6%である。

・自治会・通り会・校区まちづくり協議会・PT(C)Aの活動に参加しているかについては、「参加していない（今後も参加しない）」が46.8%で最も多く、次いで「参加している」が20.6%、「参加していない（今後参加したい）」が20.1%の順となっている。

・「参加していない（今後参加したい）」と「参加していない（今後も参加しない）」を合わせた市民の割合は66.9%となっており、今後も参加しない意向は4割を上回っている。

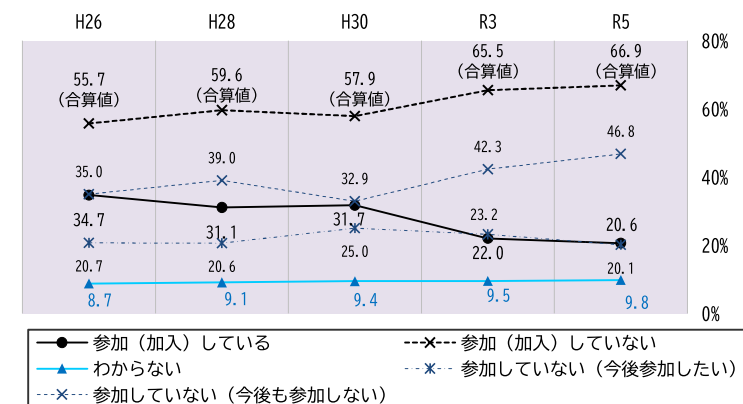


図5：経年変化（地域コミュニティ）

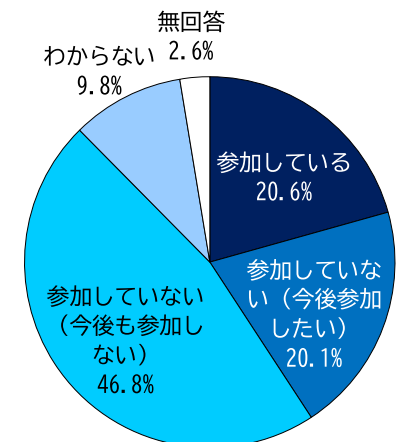


図6：調査結果（地域コミュニティ）

●市民の市政参加を促すために市がすべきだと思うことで最も多かったのは「わかりやすい広報活動」である。

・市民の市政参加を促すために、市がすべきだと思うことは、「わかりやすい広報活動」の割合が56.3%と最も高く、次いで「楽しく参加できる工夫」の割合が41.7%、「インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる」の割合が24.0%の順となっている。

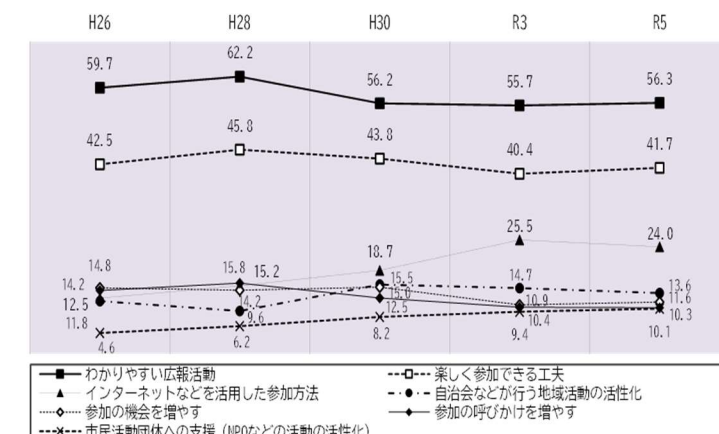


図7：経年変化（市政参加）

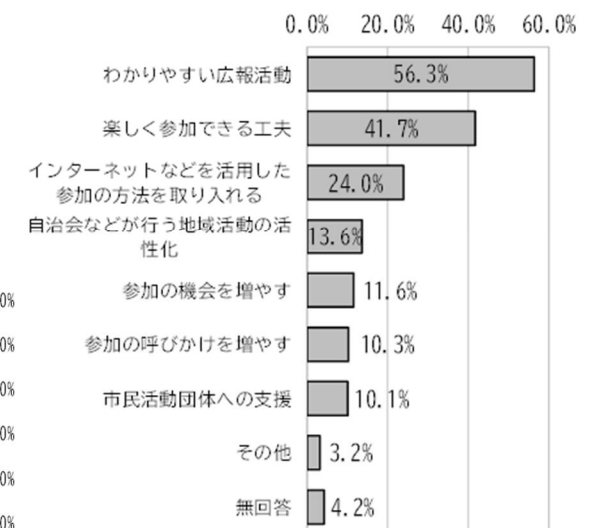


図8：回答順位（市政参加）

●本市内での文化的な環境に「満足」の割合は27.8%である。

- ・本市内での文化的な環境に満足している市民は27.8%で、前回調査より8.6ポイント増加した。

- ・劇場や博物館などへ鑑賞に出掛けると回答した市民のうち最も多かったのは「年に1～2回」であり、前回調査と比較すると、「ほとんど行かない」の割合が13ポイント減少している。

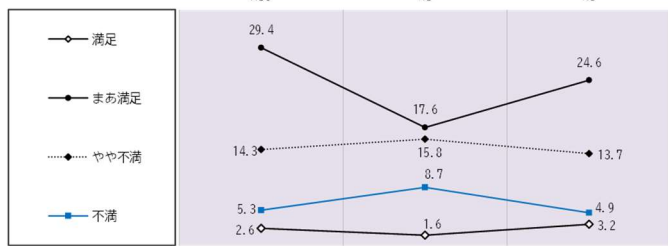


図9：経年変化（文化的な環境）

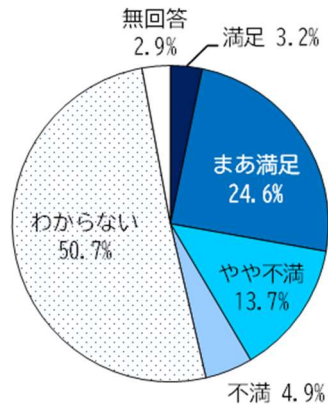


図10：調査結果（文化的な環境）

●市民が特に力を入れてほしい災害対策として最も多かったのは「高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援」である。

- ・前回調査と比較すると、「インターネット（自治体 HP、フェイスブックなど）による防災情報の提供」の割合が3.1ポイント、「防災訓練の充実」の割合が2.6ポイント減少している。

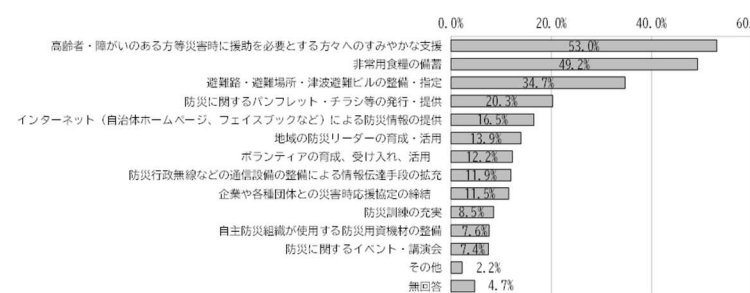


図11：回答順位（特に力を入れてほしい災害対策）

●那覇市に特に力を入れてほしいデジタル化施策は「インターネット申請により、届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる」の47.3%である。

- ・「インターネット申請により、届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる」の割合が47.3%と最も高く、次いで「暮らしを支える行政サービスがスマートフォン等で受けられる」の割合が41.5%、「マイナンバーカードを活用した便利なサービスが充実している」の割合が27.0%の順となっている。

- ・行政サービスのデジタル化に不安を感じるものについては、「個人情報情報が漏洩して悪用される」の割合が64.1%と最も高い。

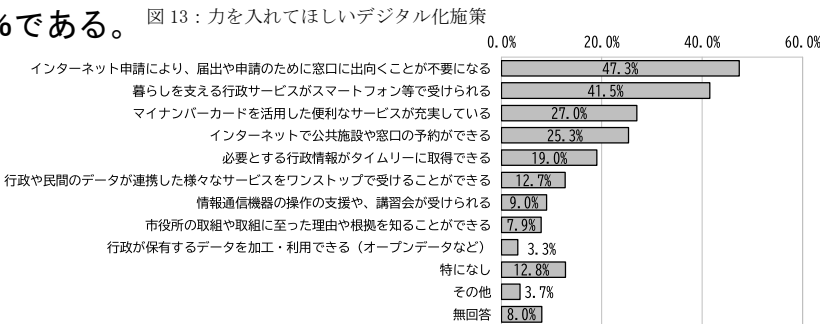
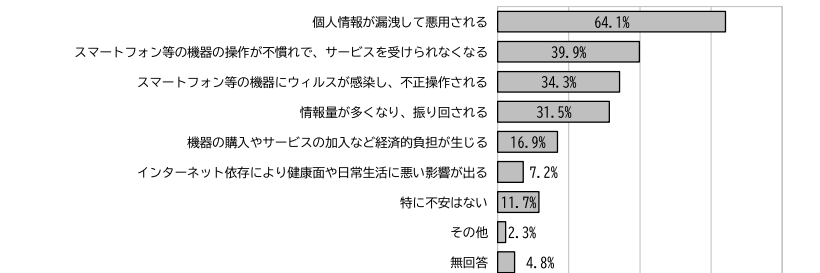


図14：デジタル化で不安に思うこと



●市民の平均幸せ点数は10点満点中6.65点である。

- ・那覇市民の平均幸せ点数は6.65点となった。今回の回答では「8点」をつけた258人が最も多く、次いで「7点」をつけた253人、「5点」をつけた242人の順となっている。

- ・前回調査と比較すると、幸せ点数は、0.12ポイント減少したが、過去4回の調査と比較すると、依然高い水準を維持している。

- ・昨年と比べて幸福感が「上がっている」市民は13.6%、「下がっている」市民は13.0%である。

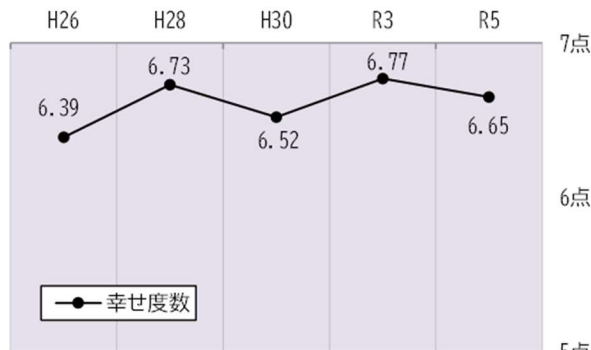
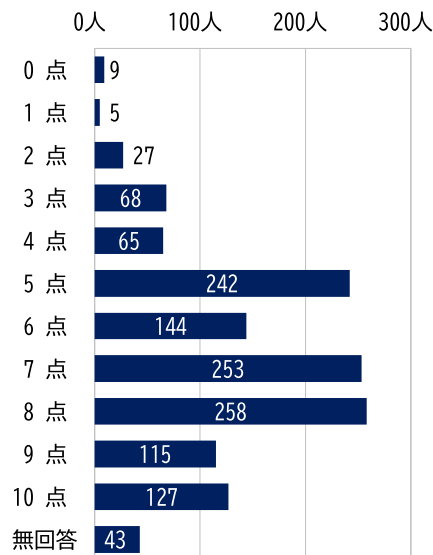


図15：経年変化（幸福度）

図16：点数分布（幸福度）



●「第5次総合計画」における23の政策については、いずれも存廃、見直しが必要とされるものではなく、今後とも維持継続、あるいは更に力をいれていくことが求められている。

- 【重点化領域とされる政策】 ※（計：満足度平均＋重要度平均 満：満足度平均 重：重要度平均）
 - ・地域の力が重なる安全安心のまちづくり（計：5.67 満：2.45 重：3.22）
 - ・子育てが楽しくなるまちづくり（計：5.65 満：2.34 重：3.31）
 - ・すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり（計：5.64 満：2.46 重：3.18）
 - ・自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり（計：5.60 満：2.30 重：3.30）
 - ・地域で暮らし地域で支えるまちづくり（計：5.57 満：2.29 重：3.28）
 - ・省エネを実践し、資源が循環するまちづくり（計：5.54 満：2.41 重：3.13）
 - ・災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり（計：5.50 満：2.26 重：3.24）
 - ・効率的で効果的な行財政運営を行う（計：5.50 満：2.25 重：3.24）
 - ・生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり（計：5.47 満：2.40 重：3.07）
 - ・市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり（計：5.43 満：2.27 重：3.16）
 - ・ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり（計：5.41 満：2.48 重：2.93）
 - ・様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり（計：5.38 満：2.36 重：3.02）
 - ・暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり（計：5.37 満：2.15 重：3.22）
 - ・産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり（計：5.32 満：2.19 重：3.13）
 - ・自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり（計：5.29 満：2.28 重：3.01）
 - ・中心市街地を活かしたまちづくり（計：5.28 満：2.36 重：2.92）
 - ・那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり（計：5.25 満：2.21 重：3.04）

- 【維持領域とされる政策】 ※（計：満足度平均＋重要度平均 満：満足度平均 重：重要度平均）
 - ・身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり（計：5.94 満：2.60 重：3.34）
 - ・衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり（計：5.87 満：2.62 重：3.25）
 - ・人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり（計：5.76 満：2.55 重：3.21）
 - ・郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり（計：5.61 満：2.62 重：2.99）
 - ・交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり（計：5.48 満：2.58 重：2.90）
 - ・小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり（計：5.43 満：2.57 重：2.86）

- 【存廃検討領域とされる政策】
 - なし

- 【見直し領域とされる政策】
 - なし